

一 告 告

KIT
キャンパス
レポート
文・出島二郎
マーケティングプランナー



池田健到 (いけだ けんこう)
金沢工業大学大学院工学研究科
高信類ものづくり専攻
博士前期課程二年
愛知県 名古屋高等学校出身

修士課程の二年間は特別な時間。 自分のために必要だと思った。

る夢考房がすごく魅力的で、日本の大学でこんなことができるんだと思っただけです。で、最初に見学したソーラーカープロジェクトに参加。二年の時、前年にオーストラリア大会に出場した先輩たちから「君たちだけで大会に出られるような環境をつくるから、ぜひやってみないか」と言われ、ぼくは大会リーダーを務めました。」

池田さんは外資系化学メーカーに勤務する父親の仕事の関係で、三歳から十歳までデトロイトで育った。さまざまな人種が住む中で、自分の意見をはっきり言うこと、いろんな価値観があつていいというのを、小さいころから感じていた。だから自分のやりたいことを優先して金沢工大を選んだ。

「学生だけのものづくりができ

出場したソーラーカーレース鈴鹿では、終盤に車軸が破断するというトラブルに見舞われたが、全員で必死に修理し、何とか完走することができた。この時の経験が池田さんを大きく成長させた。諦めずにやりきる大切さと、チームで取り組む姿勢である。授業でもグループ学習の多い金沢工大だが、夢考房との違いは責任感だという。「新しい車を一から作ってみて、もっとうしろしたい、ああしたいというのが自然と出てくる性格だと気づいた。それに、生き物の形がすごく合理的だという学びがあつたんですよ。だからバイオメカニクスと炭素繊維の両方を研究している田中研究室に入りました。今の研究テーマは「一方モデル複合材料における破壊プロセス遷移クライテリアの導出」です。」

実験ではガラスと透明に近いプラスチックを使い、破壊の一つの基準を導き出すとしていた。指導する田中基嗣教授の専門は複合材料、材料力学、バイオマテリアル、バイオメカニクス、バイオミメティクス、計算力学である。「最初から院進学を考えていました。社会人になると四十年以上、技術者として働くのだから、ぼくは修士の二年間は、就活のためではなく、好きな研究ができて他では得られない時間だと思つていたので。今は感染防止のため週半分、交代で研究室通いですが、逆にチャンスかなと、QC検定やTOEICの勉強をしています。」

就職はデンソーに内定した。インターンシップに行き、ここで本気でやれたらカッコイイと感じて、生産部門の試験と面接二回を受けた。クールな中に熱い血がみなぎる青年。人事の方は、私と同じ印象を持ったにちがいない。

金沢工業大学
石川県野々市市扇が丘七二
電話番号(076)2481200